



教育関係者・事業者部門
《農林漁業者等》

農林水産大臣賞

有限会社蔵王マウンテンファーム

(山形県) 活動期間 30年

教育ファームの確立と食の生産現場（農林漁業）の理解とともに、
その中にある教育効果の認知と理解を広める活動

食と「いのち」のつながり を学ぶ体験プログラム

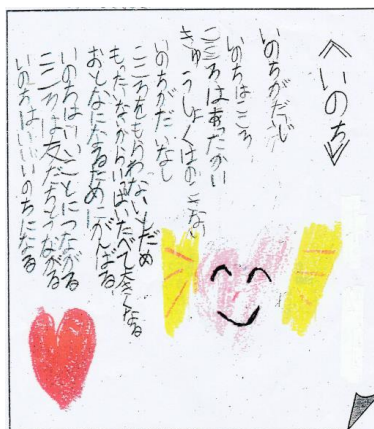
動物たちと暮らす山川牧場を活動の舞台に、自然の営みを手本とした「循環の輪」を基本として、オリジナルの体験プログラムや指導書、教材を活用しながら活動を行っています。牧場での体験と出前講座を行っており、幼稚園・保育園の子供たちから老人福祉施設の高齢者まで幅広い年齢層を対象者としています。山形県教育委員会の推薦で制作した「食・いのちの教育 環境を考える」DVDは、山形県内の全教育委員会と小中学校へ配布・活用されています。



牧場での
牛と子供の
ふれあい体験

本当に悪いのは誰でしょうか

酪農は「いのち」を作り、育て、その「いのち」を売って社会へつなぐ仕事であり、人間は自然の「いのち」の恩恵を受けて生活しています。“悪い酪農家 山川さん”の仕事について紙芝居を使ってありのままを伝える出張講座を行っています。講座では、バター作り体験も織り交ぜ、食と「いのち」と自然のサイクルと人間との密接な関わりについて考えるきっかけを提供しています。「いのち」を売った山川さんは悪い人です。でも、本当に悪い人は誰でしょうか。皆さんはいい人でしょうか。



出前講座の様子

命から食へのドラマ

実際に生きたニワトリの命を絶ち、食べ物にし、調理して食べるという体験を行っています。ありのまま体験したあと、調理した鶏肉を残す生徒は一人もいません。「いただきます」の本当の意味を理解しているのです。



食べ物になった
ニワトリ



いただきます



命と心について子供たちの理解を深めたいと考えていたとき、食育にその答えを見つけました。食が命を作り育てる。食の前後の繋がりと物語を学び、一緒に食べて心を作る。学びの場は農林漁業と暮らしの中にあります。

有限会社蔵王マウンテンファーム
代表取締役 山川 喜市